

おんきょうしゆくえん
遠慶宿縁（遠く宿縁を慶べ）出典：教行信証「総序」
遠くからの宿縁を慶べとの親鸞聖人のお言葉です。
宿縁とは「以前からのご縁」という意味です。今こうしてご本願に遇う事のできた、この時点より以前の全てを含めたご縁を仏縁として慶ぶというのです。私たちがご本願に出遇うには、多くのご縁があります。たまたま聞いたご法話や、大切な方との死別であったり、生まれた家が浄土真宗であったり。そのご縁は私にとって都合が良かつたり悪かつたり様々な形で現れます。しかし、ひとたびご本願に出遇えば、全てが私がお念佛申す身となるよう願われ続けていたはたらきであったと気がつくのです。お念佛申す身となるという事は、どちらに向かって生きていけば良いのかわからなくても走らざるを得ない人生において、つい私の都合や私の思いを優先して他者と衝突してしまう私が、自分の思いよりも仏様の「法」を人生の道標として生きるという事です。どうかこの法語を手にとつていただけた事を機縁として、お近くのお寺の法座にもお参りいただき、仏様の教えにお遇いいただけたらと思います。



法語印ははじめました。

「御朱印ありませんか」

大通寺にお参りくださる皆様からよく尋ねられる言葉です。

しかし、実は浄土真宗では御朱印をいたしません。

理由は簡単。私たち浄土真宗のお寺は、お参りして教えに出遭つたかどうかが一番大切なのです。

私たちは一度お参りして御朱印を集めたらもう大丈夫とか、一度聞いた話はもう知っているから聞く必要が無いなどと思いつがちです。しかし両親や祖父母、師の言葉が後から響くという事は、一度ならず経験している人も多いのではないかとしようか。

何度もお参りして、教えに出遇つて欲しいのです。そのための道場が浄土真宗のお寺です。参詣席が広いという特徴があるのはそのためです。どうか皆様が法語をご縁として、法要や法座にお参りくださる事を念じ、法語印はじめます。合掌